



5日間の日程で、本町で交流を行ったドイツスポーツ少年団からの派遣団9人と通訳を務めた皆さん。左から、通訳の高坂朋子さん、アーロン・キューンさん、通訳の佐藤楓さん(国際教養大学2年)、エリック・チグラルスキさん、ヨリーナ・ゼンデルさん、レオニー・ポイカートさん、マセル・キューンさん、シャルロッテ・ヒルシュベルグさん、ロビン・カイサルさん、スヴェア・マターンさん、ヤリッド・ホップさん、通訳の中里あゆみさん(国際教養大学2年)。写真は7月30日の書道体験。

本町を訪れた派遣団は、マセル・キューンさん(16歳)、エリック・チグラルスキさん(16歳)、シャルロッテ・ヒルシュベルグさん(17歳)、アーロン・キューンさん(18歳)、ヨリーナ・ゼンデルさん(18歳)、レオニー・ポイカートさん(18歳)、ロビン・カイサルさん(18歳)、ヤリッド・ホップさん(18歳)の8人と、指導者のスヴェア・マターンさん(25歳)。

皆さんは青森県弘前市での交流プログラムを終えた後、本町を訪れ、書道体験や居合の見学、舞踊などの日本文化を体験。また、五城目朝市や福祿寿酒造の見学、シアピレツ



8月1日に五城館で行ったお別れのパーティには、今回の交流に参加した方々が出席。4日間の体験を振り返り、思い出を胸に刻みました。

本町独自の体験を通じて、たくさんの方と触れ合った皆さんは、プログラムを終えた後、次の派遣先の岩手県宮古市へと向かいました。

**本町を舞台に
独自の体験を実施**

日独スポーツ少年団同時交流は、日本スポーツ少年団とドイツスポーツユースとの交流協定に基づいて行われている事業で、国際色豊かな指導者を育成するため、日独両国のスポーツ少年団のリーダー125人が互いに相手国を訪問し、18日間の日程で相互の文化、生活・習慣などを実際に体験します。本事業は、昭和49年の第1回以来、毎年実施され、本町では、7月29日から8月2日までの4泊5日の日程で受け入れを行いました。

ジ町村でのだまこ鍋づくりなど五城目の食や文化にも触れました。ほかにも、ラジオ体操を通じた雀籠・館町・昭辰町の子どもたちとの交流、弓道・座禅を通じた五城目高校の生徒との交流を行いました。

また、五城目高校インターアクト部の生徒たちとは、「スポーツにおけるインクルージョン」のテーマで、様々な人が障害の有無や人種、性別などの垣根なく、一緒にスポーツを楽しめる環境について意見交換を行いました。



**五城目で生まれた
ドイツとの絆**

7月29日から8月2日にかけての5日間、ドイツスポーツ少年団のホルシユタイン州からの派遣団9人が本町を訪れ、「第46回日独スポーツ少年団同時交流」が行われました。